

県指定
所在地：北

らっぱいちょう ラッパイチョウ

イチョウの変異種で、普通の葉に混じてロート状（ラッパ葉）の葉が約10%ほどついている。

この葉はイチョウの原始葉と考えられており、茎先端の原生初皮が葉の性質を帯び、中央の柔細胞が退化した結果ロート状となったものである。

ラッパ葉をもつイチョウはたまたま発見されるが、当イチョウはその出現率が高く、また奇形葉の種類（ラッパ葉、オハツキ葉、傘状ラッパ葉）が変化に富んでおり、植物学的に貴重である。

目通り208cm、樹高20m。

